

## トールーズのカルチュレールに見る都市権力と公証人

図師宣忠

1991年にパリで開かれた研究集会は、カルチュレールに対する中世史家の関心を刷新する画期となった<sup>1</sup>。「文書史料の、選択的か網羅的かを問わない、組織的なあらゆる転写」を包括するカルチュレールの史料としてのあり方をめぐっては、ここ20年にわたって新たな観点から議論が積み重ねられてきており<sup>2</sup>、日本でもすでに岡崎敦氏による一連の論考および研究紹介がある<sup>3</sup>。ここではこれらの議論から示唆を受けながら、南フランス都市史の立場からカルチュレールがどのように捉えられるかについて触れた上で、自身の研究の方向性について簡単に示すことにしたい。

パリの研究集회를機に南フランス史においてもカルチュレールに対する関心は高まり、カルチュレールを取り巻く研究状況は新たな展開を見せ始める。カルチュレールの目録としては、かつて R.-H. Bautier らがフランス南東部についてまとめたものがあつたが<sup>4</sup>、それを受け継ぐかたちで目録作成の作業が進められており<sup>5</sup>、オンラインで参照できるデータベースも作成されている<sup>6</sup>。また、1998年に設立された CHREMMO (Centre historique de recherches et d'études médiévales sur la Méditerranée occidentale) のもとで南フランスの中世史料に関する目録作成と研究が進められた結果、2002年には南フランスのカルチュレールに関する研究集会在催されたが、これは1991年のパリでの議論を南フランスという地域的な枠組みのなかで発展させたものであつた<sup>7</sup>。これらの研究成果は、今後の南フランス史研究の方向性を探る上でもきわめて有意義なものである。

ところで、史料が、いつ、どこで、誰によって、何を目的として、どのような書式で、いかなる手続きのもとで記されたのか、またそれがどのように整理・分類され、保管されたのか、あるいはどのような契機で利用され、また破棄されることになったのか。これらの点は、近年のテキストを

<sup>1</sup> O. Guyotjeannin, L. Morelle et M. Parisse, éd., *Les cartulaires: Actes de la Table ronde organisée par l'Ecole nationale des chartes et le GDR 121 du CNRS, Paris, 5-7 décembre 1991* (Paris, 1993). なお、この研究集会については岡崎敦「フランスにおける中世古文書学の現在—カルチュレール研究集会(1991年12月5日—7日、於パリ)に出席して—」『史学雑誌』102-1、1993年、pp. 89-110も参照。

<sup>2</sup> とりわけ次の文献はその代表例である。P. Chastang, *Lire, écrire, transcrire. Le travail des rédacteurs de cartulaires en Bas-Languedoc (XIe-XIIIe siècles)* (Paris, 2001).

<sup>3</sup> 岡崎敦「西欧中世における記憶の管理とアーカイヴズ：パリ司教座教会のあるカルチュレールをめぐって(Liber Niger)」『史淵』146(2009年)、57-89頁。また、以下の研究紹介も参照。岡崎敦「西欧中世の証書系史料—問題関心の変容と研究の展望」『西欧中世文書の史料論的研究—平成20年度年次活動報告書』(2009年)、13-24頁；岡崎敦「記憶の管理とカルチュレール—モレルとシャスタンの仕事をめぐって」『西欧中世比較史料論研究—平成19年度年次活動報告書』(2008年)、49-60頁。

<sup>4</sup> R.-H. Bautier et J. Sornay, *Les sources de l'histoire économique et sociale du Moyen Âge. T. I: Province, Comtat Venaissin, Dauphiné, états de la maison de Savoie*, vols. 3 (Paris, 1968-74).

<sup>5</sup> I. Vérité, A.-M. Legas, C. Bourlet, A. Dufour, éd., *Répertoire des cartulaires français: provinces ecclésiastiques d'Aix, Arles, Embrun, Vienne, diocèse de Tarentaise* (Paris, 2003) (Documents, études et répertoires publiés par l'IRHT, 72).

<sup>6</sup> IRHT (Institut de recherche et d'histoire des textes) の Ædilis のプロジェクトの一環としてウェブ上で公開されている以下のデータベースは、南フランスのカルチュレールも含む網羅的なものとなっている。P. Bertrand, dir., *cartulR - Répertoire des cartulaires médiévaux et modernes* (Orléans: Institut de Recherche et d'Histoire des Textes, 2006) (Ædilis, Publications scientifiques, 3) (<http://www.cn-telma.fr/cartulR/>).

<sup>7</sup> Daniel Le Blévec, dir., *Les cartulaires méridionaux: Actes du colloque organisé à Béziers les 20 et 21 septembre 2002 par le Centre historique de recherches et d'études médiévales sur la Méditerranée occidentale avec la collaboration du GDR 2513 du CNRS* (Paris, 2006)

めぐる諸問題とも関連する重要なテーマであるが、こうした観点を踏まえてカルチュレールという史料を検討する際には、それぞれの社会で文書の作成・保管・利用がいかなる方法で行われていたか、そしてそのなかでコピーがいかなる価値が置かれていたかという点がまず注目されよう。

文書の扱いにはそれぞれの時代性や地域性が映し出されるが、その点で中世南フランスは興味深い事例を提供してくれる。南フランスでは、トランカヴェル家（1186-88年）やギレム・ド・モンペリエ（12世紀末から13世紀初頭）といった世俗領主、またトゥールーズ（1205年）やナルボンヌ（1249年）などの都市権力が作成の主体となったカルチュレールが、他地域よりも比較的早い時期に出現している。この世俗領主や都市のカルチュレールの早期の出現という事実は、南フランスのカルチュレールの地域的な特質として重要である。というのも、このことは当該地域における公証人文化の進展と無関係ではなく、また公証人が作成するコピーの価値という問題とも密接に関連しているからである。

実際、12世紀後半から13世紀にかけての南フランス各地で文書の真正性は公証人によって保証されるようになっていくが、そうした公証人文化のなかで公証人が作成するコピーに対する信頼も獲得されていった。たとえば都市トゥールーズでは、公証人が文書の転写作業にあたる際に、その作業の証人となる別の二名以上の公証人の副署があれば、そのコピーは法的効力を有した「真正なるコピー」だとみなされた。このコピーの真正性は、オリジナルから転写されたものであっても、コピーのそのまたコピーであっても確保される。要するに、公証人が一定の手続きに則って作成したものであれば、コピーにもオリジナルと同様の法的有効性が認められるのである。トゥールーズの都市カルチュレールとは、まさにこうした「真正なるコピー」の集成なのであった<sup>8</sup>。

ただし、公証人が作成したこれらの文書は地域を越えて一元的に証拠としてみなされたわけではない。というのも、公証人はそれぞれの地域ごとに都市権力や聖俗領主などの諸勢力から公的な文書作成の権限を与えられており、文書の法的有効性を認証する根拠がどのような存在に求められるかによって公証人の果たす役割も変わってくるからである。さらに公証人とこれらの諸権力との関係は決して固定的ではなく、その地域の権力構造の変化にもなって変容していく。そのため、文書作成の主体と公証人との連携のあり方がそれぞれの局面でいかなるものであったか、そしてそれらがいかに変化していくかを考察することが重要となろう。その地域・時代において文書が生み出されるコンテクストを踏まえながら、こうした文書作成という営為を権力関係のなかに位置づけて捉え、諸権力と公証人との協働・共益関係のあり方を比較していくことが、南フランスにおける文書利用の実態に迫るために必要であると思われる<sup>9</sup>。

<sup>8</sup> トゥールーズの都市カルチュレール編纂の目的を探り、南フランス都市史の読み直しを試みたものとして、図師宣忠「中世盛期トゥールーズにおけるカルチュレールの編纂と都市の法文化」『史林』90巻2号（2007年）、30-62頁。

<sup>9</sup> 都市トゥールーズを対象に公証人と権力（都市／王権）との関係を探り、13世紀という文書利用のあり方が変化を迎える時代の特質を考察したものとして、図師宣忠「中世南フランス都市トゥールーズにおける公証人と法実践」鈴木秀光・高谷知佳・林真貴子・屋敷二郎編『法の流通』（慈学社、2009年12月）、361-84頁。

<参考文献> (注で直接触れなかったものを以下に示す)

- Bautier, R.-H., 'L'authentification des actes privés dans la France médiévale: notariat public et juridiction gracieuse', dans: *Notariado público y documento privado, de los orígenes al siglo XIV. Actas del VII Congreso internacional de diplomática, Valencia, 1986* (Valencia, 1989), t. II, pp. 701-772.
- Bordes, Fr., 'Les cartulaires urbains de Toulouse (XIIIe – XVIe siècles)', dans: Daniel Le Blévec (dir.), *Les cartulaires méridionaux* (Paris, 2006), pp. 217-238.
- Declercq, G., 'Originals and Cartulaires: The Organization of Archival Memory (Ninth-Eleventh Centuries)', in: K. Heidecker, ed., *Charters and the Use of the Written Word in Medieval Society*, (Turnhout, 2000), pp. 147-170.
- Friedlander, A. R., 'Signum meum apposui: Notaries and their Signs in Medieval Languedoc', in: R. F. Berkhofer III, A. Cooper and A. J. Kostko, eds., *The Experience of Power in Medieval Europe, 950-1350* (Aldershot, Hampshire, England; Burlington, VT, 2005), pp. 93-117.
- Heidecker, K., ed., *Charters and the Use of the Written Word in Medieval Society* (Turnhout, 2000).
- Léonard, E. G., 'Chanceliers, notaires comtaux et notaires publics dans les actes des comtes de Toulouse', *Bibliothèque de l'École des Chartes*, 113 (1956), pp. 37-74.
- Lesné-Ferret, M., 'The Notariate in the Consular Towns of Septimanian Languedoc (Late Twelfth-Thirteenth Centuries)', in: K. Reyerson and J. Drendel, eds., *Urban and Rural Communities in Medieval France, Provence and Languedoc, 1000-1500* (Leiden, 1998), pp. 3-21.
- Macé, L., 'Pouvoir comtal et autonomie consulaire à Toulouse: analyse d'une miniature du XIIIe siècle', *Mémoires de la société archéologique du midi de la France*, LXII, 2002, pp. 51-59.
- Morelle, L., 'De l'original à la copie: remarques sur l'évaluation des transcriptions dans les cartulaires médiévaux', dans: O. Guyotjeannin, L. Morelle et M. Parisse, eds., *Les cartulaires: Actes de la Table ronde organisée par l'École nationale des chartes et le G.D.R. 121 du C.N.R.S., Paris, 5-7 décembre 1991* (Paris, 1993), pp. 91-102.
- Parisse, M., 'Les cartulaires: copies ou sources originales?', dans: O. Guyotjeannin, L. Morelle et M. Parisse, eds., *Les cartulaires: Actes de la Table ronde organisée par l'École nationale des chartes et le G.D.R. 121 du C.N.R.S., Paris, 5-7 décembre 1991* (Paris, 1993), pp. 503-12.
- Salies, P., 'Origine et développement d'un notariat public: les notaires créés par les capitouls de Toulouse', *Bulletin philologique et historique (jusqu'à 1610) du Comité des travaux historiques et scientifiques: Actes du 88e Congrès national des Sociétés savants*, vol. 2 (Paris, 1966), pp. 844-58.
- Smail, D. L., 'Notaries, Courts, and the Legal Culture of Late Medieval Marseille', in: K. Reyerson and J. Drendel, eds., *Urban and Rural Communities in Medieval France, Provence and Languedoc, 1000-1500* (Leiden, 1998), pp. 23-50.